

## I. 原著論文

- 1) Eda H, Aoki K, Marumo K, Fujii K, Ohkawa K. FGF-2 signaling induces downregulation of TAZ protein in osteoblastic MC3T3-E1 cells. *Biochem Biophys Res Commun* 2008; 366(2): 471-5.
- 2) Udaka J, Ohmori S, Terui T, Ohtsuki I, Ishiwata S, Kurihara S, Fukuda N. Disuse-induced preferential loss of the giant protein titin depresses muscle performance via abnormal sarcomeric organization. *J Gen Physiol* 2008; 131(1): 33-41.
- 3) Ikeda R, Takahashi Y, Inoue K, Kato F. NMDA receptor-independent synaptic plasticity in the central amygdala in the rat model of neuropathic pain. *Pain* 2007; 127(1-2): 161-72.
- 4) Shiraki M, Kuroda T, Tanaka S, Saito M, Fukunaga M, Nakamura T. Nonenzymatic collagen cross-links induced by glycoxidation (pentosidine) predicts vertebral fractures. *J Bone Mineral Metab* 2008; 26(1): 93-100.
- 5) Shimazaki M, Nakamura K, Kii I, Kashima T, Amizuka N, Li M, Saito M, Fukuda K, Nishiyama T, Kitajima S, Saga Y, Fukayama M, Sata M, Kudo A. Periostin is essential for cardiac healing after acute myocardial infarction. *J Exp Med* 2008; 205(2): 295-303.
- 6) Tanaka T, Kumagae Y, Saito M, Omori T, Marumo K. Usefulness of the anterior surface and supracondylar region of the femur as a landmark for femoral rotational alignment in knee surgery. *Jikeikai Med J* 2007; 54(2): 141-5.
- 7) 宮坂輝幸, 山岸恒雄, 鈴木彦彦, 根本高幸, 静三葉子, 丸毛啓史, 蔡詩岳, 藤井克之. 三角骨に発生した骨内ガングリオンの1例. *関東整災外会誌* 2007; 38(1): 1-4.
- 8) 江田 誉, 吉松俊一, 吉松俊紀, 丸毛啓史, 蔡詩岳, 藤井克之. 国体またはインターハイに出場する選手におけるスポーツ障害の予防. *日整外スポーツ医学会誌* 2007; 26(3): 329-35.
- 9) 青柳 充, 神前智一, 田邊登崇, 石川義久, 川田秀樹. 小児化膿性膝関節炎後の変形に対して矯正骨切り術を行った1例. *栃木整外医会誌* 2007; 21: 21-3.
- 10) 青柳 充, 神前智一, 田邊登崇, 石川義久, 川田秀樹. 小児化膿性膝関節炎後の変形に対して同側大腿, 下腿骨の矯正骨切り術を行った1例. *栃木整外医会誌* 2007; 21: 24-7.
- 11) 為貝秀明, 勝又壮一, 林 靖人, 小澤美貴. 股関節手術後のトロンビン・アンチトロンビン III 複合体値, D グイマー値の検討 肺梗塞, 深部静脈血栓症の早期診断, スクリーニングをめざして. *整形外科* 2007; 58(5): 497-501.
- 12) 田中孝昭, 熊谷吉夫, 間 浩道, 北里精一郎, 菊地隆宏, 丸毛啓史. 脛骨プラトー骨折後の膝内反変形に対する opening-wedge high tibial osteotomy (HTO). *骨折* 2007; 29(2): 390-3.
- 13) 加藤壮紀, 増井文昭, 神谷耕次郎, 茶藪昌明, 為貝秀明, 丸毛啓史. 壊死性筋膜炎3症例の治療経験. *東日整災外会誌* 2007; 19(2): 201-5.
- 14) 久富 輔, 浅沼和生, 中村陽介, 石川義久, 北里精一郎, 鈴木恵介, 諸橋正行, 宮永威彦, 丸毛啓史. Microgeodic disease と思われる2例. *関東整災外会誌* 2007; 38(3): 61-5.
- 15) 曾雌 茂, 茶藪昌明, 井上 雄, 中村陽介, 篠原 光, 丸毛啓史. PLIF における  $\beta$ -TCP の有用性の検討—自家骨との比較—. *日本脊椎インストゥルメンテーション学会誌* 2007; 6: 34-7.
- 16) 白 勝, 増井文昭, 茶藪昌明, 為貝秀明, 加藤壮紀, 伊藤吉賢, 北里精一郎, 真島敬介, 丸毛啓史. 大腿骨骨幹部骨折術後に再骨折をきたしチタン製髓内釘が屈曲変形した1例. *関東整災外会誌* 2007; 38(4): 132-7.
- 17) 中神祐介, 増井文昭, 神谷耕次郎, 為貝秀明, 加藤壮紀, 伊藤吉賢, 真島敬介, 白 勝, 酒井伸英, 奥津裕也, 丸毛啓史. 外傷における深部静脈血栓症・肺血栓症に関する検討. *関東整災外会誌* 2007; 38(4): 128-31.
- 18) 服部英和, 田中孝昭, 熊谷吉夫, 斎藤 充, 間 浩通, 菊地隆宏, 諸橋正行, 真島敬介. 足関節部に発生した Tenosynovial osteochondroma の1例. *栃木整外医会誌* 2007; 21: 28-30.
- 19) 藤井英紀, 大谷卓也, 林 大, 加藤 努, 鈴木恵介, 丸毛啓史. 透析患者のアミロイド性股関節症により大腿神経麻痺を生じるに至った1例. *Hip Joint* 2007; 33: 616-8.
- 20) 林 大, 大谷卓也, 藤井英紀, 加藤 努, 為貝秀明, 丸毛啓史. 両側同時に急速な骨頭破壊を呈し大腿骨頭壊死と考えられた壮年症例. *Hip Joint* 2007; 33: 612-5.
- 21) 加藤 努, 大谷卓也, 藤井英紀, 林 大, 林 靖人, 上野 豊, 川口泰彦, 丸毛啓史. 股関節手術における3

- 次元 CT 画像解析と実物大立体模型作製の小経験.  
Hip Joint 2007; 33: 322-5.
- 22) 舟崎裕記, 吉田 衛, 菅 巖, 加藤壮紀, 諸橋正行, 丸毛啓史. 肩鎖関節脱臼に対するポリ乳酸製靱帯補強材を用いた手術法. 整形外科 2007; 58(11): 1525-8.
- 23) 林 大, 大谷卓也, 藤井英紀, 加藤 努, 為貝秀明, 丸毛啓史. THA 亜脱臼性股関節症に対する 3 本スパイク型セメントレス人工臼蓋の中期成績. 日人工関節会誌 2007; 37: 142-3.
- 24) 大谷卓也, 藤井英紀, 林 大, 林 靖人, 上野 豊, 石川義久, 丸毛啓史. インターロッキングシステムを用いた人工股関節再置換術の短期成績. 日人工関節会誌 2007; 37: 364-5.
- 25) 藤井英紀, 大谷卓也, 林 大, 川口泰彦, 青柳 充, 丸毛啓史. PRIMALOC セメントレス人工股関節システムの中期成績. 日人工関節会誌 2007; 37: 146-7.
- 26) 加藤壮紀, 舟崎裕記, 吉田 衛, 菅 巖, 諸橋正行, 丸毛啓史. スポーツ選手における肩関節前方不安定症の手術成績 — 鏡視下法と Modified Inferior Capsular Shift 法との比較検討. 日整外スポーツ医学会誌 2008; 27(3): 298-302.
- 27) 田中 平, 橋本圭司, 安保雅博, 靱間 剛, 大谷卓也, 丸毛啓史, 宮野佐年. 人工股関節全置換術後リハビリテーションの検討 (第 2 報). J Clin Rehabil 2007; 16(7): 652-6.
- 28) 田中 平, 橋本圭司, 丸毛啓史, 安保雅博. 人工膝関節全置換術後リハビリテーションの検討. J Clin Rehabil 2007; 16(12): 1199-202.
- 響と変化 — 基礎と臨床 脊椎・脊髄の加齢性変化 椎骨. 脊椎脊髄ジャーナル 2007; 20(5): 380-5.
- 2) 斎藤 充. 【ビタミン K の今日的意義と役割】基礎編 骨質 (コラーゲン代謝から). Pharm Med 2007; 25(6 月増刊): 39-46.
- 3) 斎藤 充. 【Bisphosphonate】骨ミネラルとコラーゲン架橋に及ぼす効果. BONE 2007; 21(5): 569-72.
- 4) 大谷卓也, 丸毛啓史, 藤井英紀, 上野 豊, 川口泰彦. 【人工股関節置換術; Charnley を超えたか?】 慈大式セメントレス人工股関節 その変遷と初期機種 of 長期成績. 整・災外 2007; 50(11): 1253-60.
- 5) 斎藤 充. 【新しい骨疾患治療薬の骨粗鬆症治療への応用の可能性】 ビタミン B6 製剤. 骨粗鬆症治療 2007; 6(4): 304-10.
- 6) 大谷卓也, 丸毛啓史. 【変形性股関節症に対する骨切り術 有効性と限界】 今日の変形性股関節症治療における筋解離術の意義と適応. 関節外科 2007; 26(10): 62-9.
- 7) 斎藤 充. 【新時代の骨粗鬆症学 骨折予防を見据えて】 骨質 構成要素・評価方法など コラーゲン架橋構造. 日臨 2007; 65 (増刊 9 新時代の骨粗鬆症学): 209-13.
- 8) 斎藤 充. 【ビタミンと骨】 ビタミン B 群と骨. BONE 2008; 22(1): 47-52.
- 9) 前田和洋, 斎藤 充, 丸毛啓史. 目で見える Bone Biology コラーゲン架橋と骨質. 骨粗鬆症治療 2008; 7(1): 2-5.
- 10) 斎藤 充. 【骨質の評価】 骨粗鬆症治療薬の骨材質特性への効果. Clin Calcium 2008; 18(3): 364-72.

## II. 総 説

- 1) 曾雌 茂. 【高齢者の脊椎脊髄疾患】 加齢による影